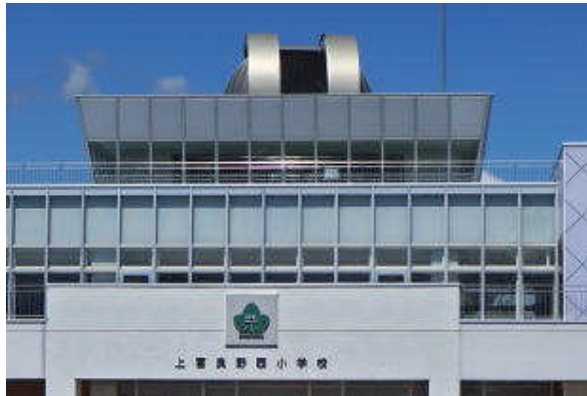


# 望遠鏡など天文台施設の紹介

本校の「チャレンジ天文台」には、口径20cmと口径10cmの屈折式望遠鏡などが設置されています。これらの望遠鏡はコンピュータ制御で動くようになっていて、ノートパソコンの画面を見ながらマウスで操作することにより、自動的に目的の天体に向けることができます。

この恵まれた施設を活用することにより、通常の授業が行われている昼の授業時間中であっても、教科書に出てくる天体に望遠鏡を向けて、本物の天体を題材に学習をすることが可能になります。この望遠鏡を使用すると、1等星などの明るい星は昼間でもはっきり見ることができます。



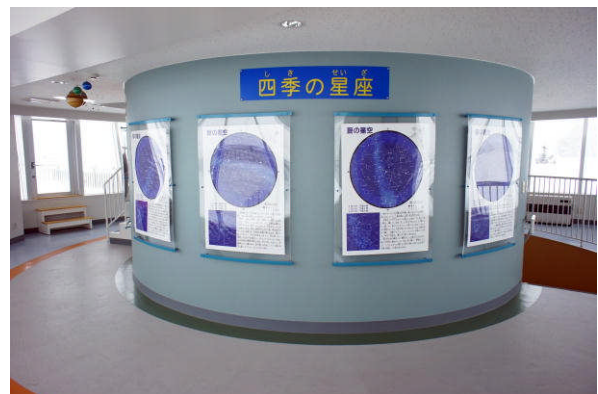
校舎の3階は展望室と天文台になっています。夏には展望室からラベンダー畑などの美しい景色が見渡せます。



2階のホールから3階の展望室と天文台へと続くらせん階段があります。



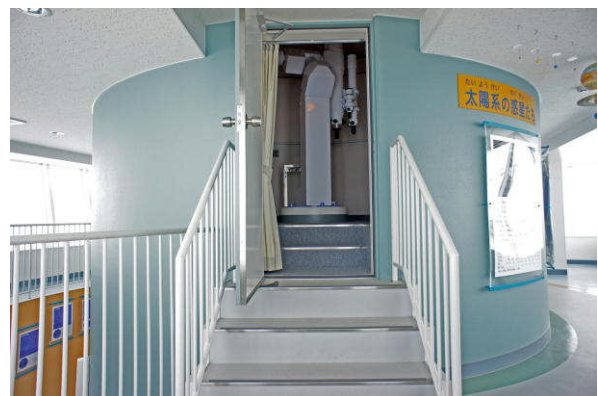
らせん階段には、「黄道12星座」についての掲示物があります。



中央の丸い壁には「四季の星座」についての掲示物があり、この壁の中が天文台になっています。



天井から惑星の模型が釣り下げられていて、惑星の大きさの比較ができます。



天文台入り口のドアを開けると、中に大きな望遠鏡が見えます。

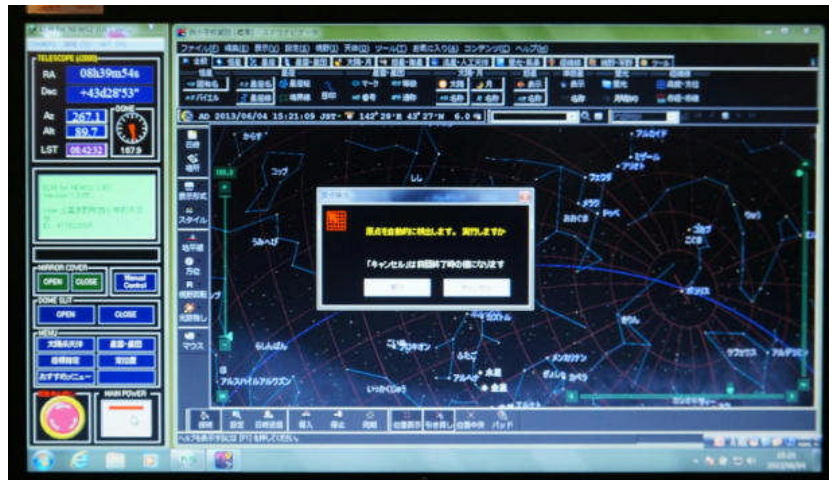
天文台の中の様子です。望遠鏡を2つの方向から見たところでは。

大きな望遠鏡が口径20cmのEDレンズを備えた望遠鏡です。2番目に大きな望遠鏡は口径が10cmで、主に太陽の観察に使用しています。左の写真に写っている短い望遠鏡は、口径が8cmで、CCDカメラを取り付けて、月などの明るい天体の映像をモニター上に表示する時に使用しています。



望遠鏡を動かすときに使用するノートパソコンの画面です。星図や操作パネルが表示されています。

星図上には、その時刻に見られる天体が表示されています。マウスを使用して天体を指定すると、望遠鏡が自動的に動き、その天体が望遠鏡の視野に導入されます。この時、望遠鏡の動きに同期してドームも自動的に回転します。



## チャレンジ天文台誕生の経緯

チャレンジ天文台は、新校舎建設（平成12年10月竣工）にあたり、当時の子どもたちの「理科離れ」の傾向を食い止めるため、『本物の天体』の観察を取り入れた学習を通して、学習意欲や知的な好奇心などを高めてほしいという願いを込めて設置されたそうです。また、当初から社会教育での活用も行われており、冬季を除いて毎月1回、富良野圏在住の人を対象にした天体観望会を開催しています。



身近なチャレンジ天文台観望会に参加すれば毎日夜空を見上げる楽しさがわかるかも！

まずは目の観察。大きな望遠鏡を通して表面のフレアが鮮明に見え、肉眼で見るとは違って大迫力。参加者はレンズに映し出された月の様子を携帯電話やデジタルカメラに納めました。広報担当が撮ったのが左の写真です。もう一つの見どころ、土星の観察では、「輪」がくっきり。望遠鏡を覗き込みながら「おお」「すごいねえ」など感嘆の声が上がっていました。市街地から車で数分で行けることも

『広報かみふらの』の記事から(2013年6月)



『広報かみふらの』表紙